

北海道新聞

平岸の歴史を訪ねて

自然史編

第2回、支笏火砕流／火砕流が台地を作った②

支笏火砕流の痕跡をもっともよく観察できるのは、南区の石山緑地公園です。火砕流堆積物の上半分はがさがさとして非常にくずれやすく、風化してジグザグに大きく削り取られています。下半分はいかにも固く引き締まっています(写真1)。



写真1. 石山緑地公園の支笏火砕流堆積物

これは、火砕流が厚くたまったためにその中心部が高熱と圧力で熔けて固まったこと(溶結)によるものです。この下半分の固まった部分を特に札幌軟石と言い、軽くて加工しやすかったため、明治から大正にかけて石材として広く使われました(写真2)。



写真2. 札幌軟石の門柱(平岸6条15丁目)

更新世		縄文～擦文	明治					大正	昭和			平成	時代
4万年前	1万年前	7千～千年前	4	6	8	23	44	7	16	43	46	2	年代
支笏火砕流の発生	旧豊平川扇状地の形成	ぼうず山・東山遺跡 天神山チャシ	岩手県からの集団入植	平岸用水の開削	リング栽培の開始	平岸小学校開校	あんぱん道路の完成	定山溪鉄道の開通	平岸霊園の開園	HTB開局	地下鉄南北線開業	羊ヶ丘通全面開通	できごと

この石材を運ぶために、山鼻く川沿く石山間の道路が整備され、札幌石材馬車鉄道が敷設されました。これは、現在の石山通や市電に引き継がれています。平岸でもかつては、この火砕流堆積物がいたるところで観察されましたが、現在ではコンクリートに覆われ見られなくなりました。平岸5条11丁目のぼうず山公園沿いの崖や、4条12丁目の高台公園の左側の崖にはかつて少しピンク色がかった灰色の火砕流堆積物が見られました(地図1)。ここでは、昭和のはじめごろまで大日本麦酒(現サッポロビール)のビール瓶の原料となる火山灰を採取していました。採取時に開けられた横穴は、太平洋戦争の際に防空壕としても使われました。



地図1. 火山灰採取地点と
札幌軟石門柱の場所

郷土史家として平岸の歴史を研究されていた故・奥内雄幸さん(平岸4条11丁目)は郷土史「平岸百拾年」の中でこの火砕流堆積物について詳細な報告をされています。それによると、まず崖の一番下には砂質粘土があり、その上に厚さ約18mの火砕流がのっかっていること、黒色の炭化木がまれに見られ、大きいものでは直径12cm・長さ1mのものがあつたことを述べています。火砕流の下位の砂質粘土は、火砕流が流れてくる以前の地面であり、炭化木はそこに生えていた木々です。これらの木々はすべて火砕流に飲み込まれて焼き上がり真っ黒に炭化しました。千歳市の美々地区では、支笏火砕流の中から大量の立木したままの炭化木(美々化石林)が見つかっており、この炭化木中に含まれる炭素14*の量を測ることでこの火砕流が約3万2000年前に発生したものであることがわかっています。奥内さんが報告した炭化木も炭素14を測定すれば同じ値が出ると思いますが、残念ながら残されていません。この火砕流は豊平川をも乗り越え、藻岩山の下にまでたどり着きました。これによって、豊平川はせき止められます。次回は、豊平川の歴史と扇状地について述べたいと思います。

放射性炭素年代測定法*…生物は体内に一定比率の炭素同位体(炭素14)を有しているが、死後は新たな炭素14を補給することが不可能になるため、この比率が下がり始める。炭素14は5730年で半減するので、炭素14の比率を測ることによってその生物が死んだ年代を測定することができる。

参考資料 『平岸百拾年』平岸百拾年編集委員会、553 pp.

取材協力をお願い…この連載では今後現代にいたるまでの平岸の歴史を紹介する予定です。昔の思い出や資料・写真など平岸の歴史に関わることをご存知の方はどんなことでも結構ですのでお気軽にお知らせいただくと幸いです。

【編集後記】

私がこの平岸の歴史の連載を始めようと考えた直接のきっかけは祖父の死でした。祖父は樺太生まれで、戦後小さい父を連れ登別に引き上げ、一昨年その地で亡くなりました。このことは間接的に耳にしましたが、直接祖父から聞く機会を作らなかつたことに悔いを感じました。亡くなった祖父の病室に残された樺太の郷土史が祖父の人生の何事かを暗示しているようで今でもはつきりとその光景が脳裏に浮かびます。

北海道の特殊さは一世紀半さかのぼれば、どこもただの原野で、それをわずかに数世代のいわば可視範囲の中で開拓してしまったということです。そこにはとてもない苦労が伴っていたのですが、残念ながらこの苦労が十分伝わっていないように思います。私たちは新聞販売所の使命として、少しでも先代のご苦労を伝えることができればと思います。

執筆者：道新永田販売所営業主任 伴野卓磨

1977年室蘭市生まれ。金沢大学理学部地球学科博士課程
(古生物学専攻)を修了後、六花亭に入社。2011年より現職。

◇発行元◇

(株)北海道新聞永田販売所

〒062-0936

札幌市豊平区平岸6条13丁目7-18

TEL: 011200-1128 3348

Fax: 011200-1128 3358

◆この連載は毎月1日・15日の道新朝刊に折り込みいたします

